

調査分析Ⅱ（詳細分析）

調査分析Ⅱ（詳細分析）

下村英雄（（独）労働政策研究・研修機構）

１．今回の調査から分かったこと

今回の調査データに関する相関分析の結果から、介護の業界や介護の仕事に対する若者の意識がどのようなものであるか、また、介護業界および介護の仕事は若者にどのようなイメージをもたれているかについて、詳しく分析を行った。

分析結果から分かったこと、並びに分析結果をもとに、介護業界を若者によりアピールするための方策としてどのようなことが考えられるのかについて、以下の８つの点にまとめられる。

①介護の仕事の必要性は十分に理解されているが、(ア)友達が就職する際に賛成するか、(イ)自分の就職先として魅力があるかとなると、極端に肯定的な回答が低まる。介護の仕事が若者の間で魅力があるものと映る対策の必要性が再確認された。

⇒若者に対する介護の仕事内容のよりいっそうの啓発活動の充実。

②介護の仕事に対する就職したいという希望は、介護に対する関心と密接と関連していた。職場体験・インターンシップ・ボランティアの形にかかわらず、また、直接、介護の実習を行うのみならず、掃除やお年寄りの話し相手になるという補助的な業務でも、とにかく何らかの介護体験をすることが介護に対する就職意欲および関心と結びついていた。学校段階の若者の職場体験等の重要性が改めて示された。

⇒学校段階での職場体験・インターンシップ・ボランティア等の積極的な受け入れの拡充。

③介護の仕事に対する興味は、性別によって異なり、女性が関心をもつ割合が高かった。特に、友人が介護の仕事に就いている女性や家族が介護を受けていたという女性が関心をもつ割合が高かった。この人達は、収入面の関心は低く、むしろ資格取得および専門知識を発揮する機会、仕事のやりがいを求めている。精神的・体力的なきつさを懸念しており、職場の人間関係も重視していた。改めて、女性が関心をもつ職場としての自覚や対策の必要性が確認される結果となった。

⇒女性が働きやすい職場、女性が関心をもつような仕組みの充実。

④介護の仕事に就きたいと考える若者の特徴として、(ア)身近に介護の仕事で働いているか介護を受けていた人がいる、(イ)本・映画・テレビなどからの影響よりも親や学校からの影響が大きい、(ウ)祖父母と同居しており、よく話をしている、(エ)日常生活でも話をする人数が多い、(オ)介護に関する職場体験・インターンシップ・ボランティアの経験があり、学校時代にもっと勉強したかったと考えている。

⇒もともと介護に関心をもつ若者は一定数いそうなので、そうした若者へのアピールの検討（若者自身の介護体験・お年寄りと接した経験に訴える等）

⑤厳しい就職状況下で介護の仕事に良いイメージをもつようになった若者は、もともと介護に良いイメージをもっている若者であった。「お年寄り」や「介護」に良いイメージがあり、「人と仲良くするため」「人の役に立つため」に働きたいと考える若者が、介護業界に関心を向けていた。

⇒人と協力し、人の役に立つために働きたいと考える若者は、常に一定数いると考えられることから、そうした就労観をもつ若者にこそ介護業界や介護の仕事が向いていることを示し、介護の仕事をアピールする。

⑥もともと介護に興味をもつ若者は、お金のために働きたいとは考えておらず、むしろ、資格取得や仕事のやりがいに関心をもち、自分の将来イメージが描けるかを重視している。介護の仕事が自分に合うかどうか（周りの人間とうまくやっていけるかを含めて）、職場に入ってから研修や指導があるかどうか、ケガの心配はないかを気にしている。

⇒資格取得のプロセスやキャリアパスの明確化、何歳でどうなるというルート of 明確化。

⑦本来、介護に関心があるのに介護の仕事に就職しようとしなない若者は、友人や家族の影響が強そうであった。

⇒若者の友人関係や家族を巻き込んだ取り組みの発案・推進。

⑧首都圏か首都圏以外かで介護業界および介護の仕事の相対的な位置づけはかなり異なるようであり、地域性（ローカル性）を考慮した、介護の仕事に向けた土壌づくりが必要となる。

⇒地域の実情にあった、また、地域の特徴を活かした介護の仕事の重要性や有用性、就職先としての魅力などのアピール

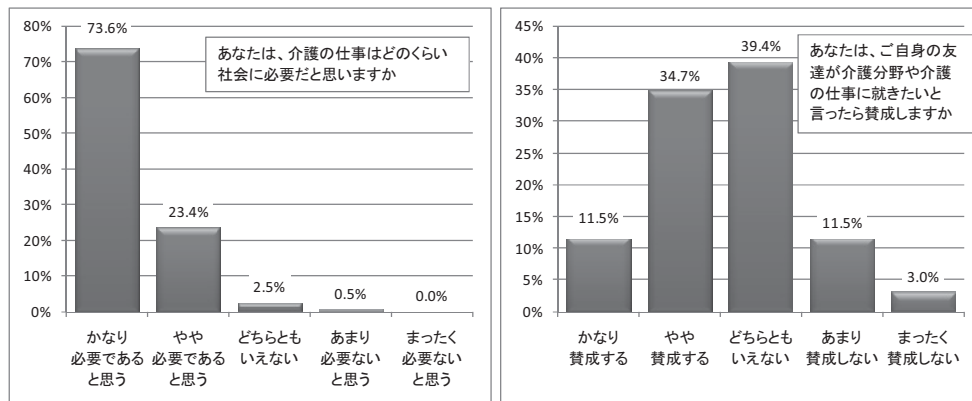
この章では、それぞれの設問の相関関係を分析し、特徴的な結果についてレポートしている。なお、相関分析については、すべての設問において分析確認しているが、特徴的な傾向や統計上の違いが出てきた項目に限定し考察した。

2. 介護の業界や介護の仕事に対する意識の全般的特徴

まず初めに、介護の業界や介護の仕事に対する意識の全般的な特徴を検討した。

「あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思いますか」で最も回答が多かったのは「かなり必要であると思う」であり、73.6%の若者が介護の仕事の必要性を高く評価していた（図表1左）。

「あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか」で最も回答が多かったのは「どちらともいえない」39.4%であり、「やや賛成する」が34.7%と続いていた。友達が介護の仕事に就くことには、どちらかと言えば賛成が多かった（図表1右）。

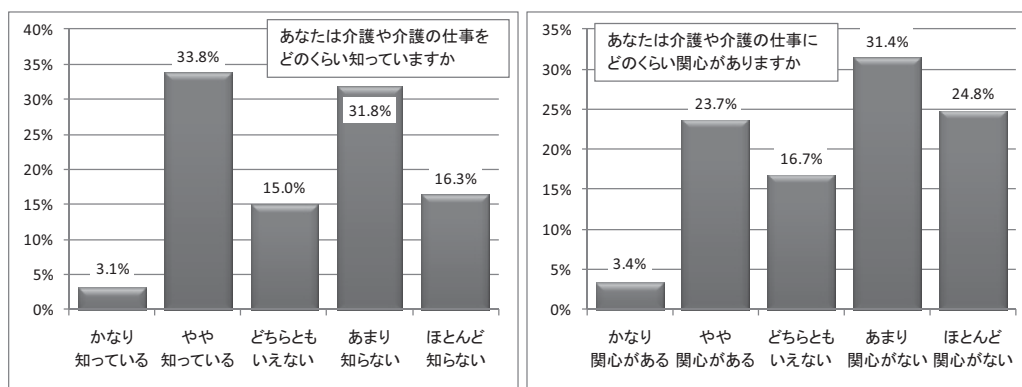


図表1 介護の業界や介護の仕事に対する意識①

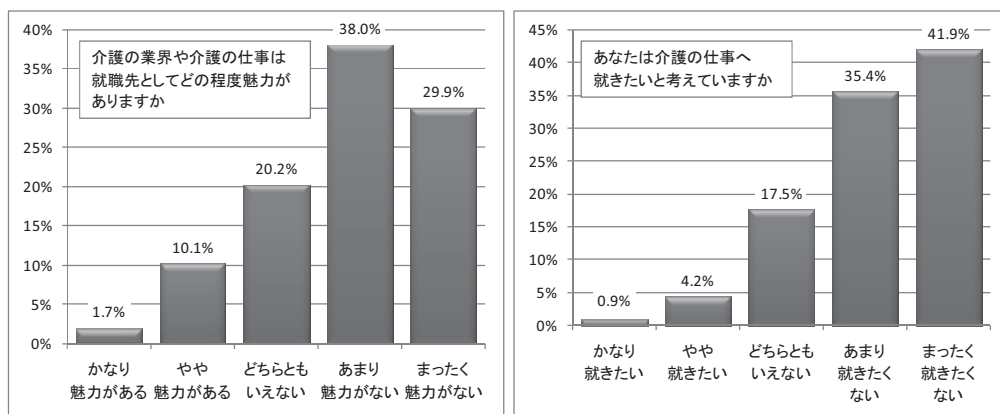
「あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか」では「やや知っている」33.8%と「あまり知らない」31.8%はほぼ同じ割合であり、介護の仕事を知っている若者と知らない若者に分かれていた（図表2左）。

「あなたは介護や介護の仕事どのくらい関心がありますか」では「あまり関心がない」が31.4%と最も回答が多く、「ほとんど関心がない」24.8%と続いていた。今回、調査回答者となった若者は介護の仕事にあまり関心がないことが示されるが、一方で、「やや関心がある」と回答した若者も23.7%と比較的多く、**介護に対する関心も若者の間で比較的分かれていた**と言えよう（図表2右）。

「介護の業界や介護の仕事は就職先としてどの程度魅力がありますか」では「あまり魅力がない」が38.0%と回答が最も多かった。また、「あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか」では「まったく就きたくない」が41.9%と回答が最も多かった。調査回答者となった若者にとって介護の業界はあまり魅力がなく、介護の仕事に就きたくないと考えていた。



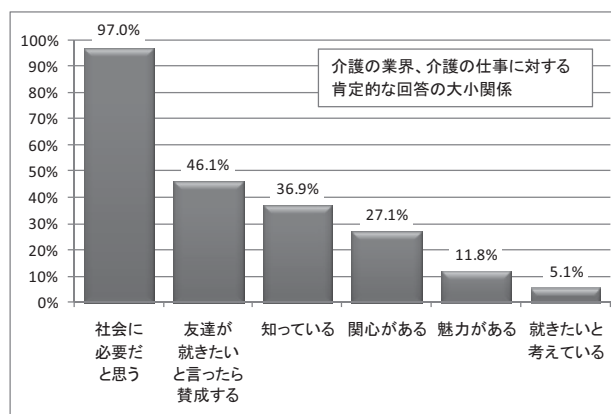
図表2 介護の業界や介護の仕事に対する意識②



図表3 介護の業界や介護の仕事に対する意識③

図表4は、図表1～図表3までの各項目のうち肯定的な回答を合計し（例：「かなり必要である」＋「やや必要である」等）、並べて図示したものである。「社会に必要だと思う（97.0%）」＞「友達が就きたいと言ったら賛成する（46.1%）」＞「知っている（36.9%）」＞「関心がある（27.1%）」＞「魅力がある（11.8%）」＞「就きたいと考えている（5.1%）」という順に肯定的な回答が多かった。

また、図表4では、介護の仕事が「社会に必要だと思うか」と「友達が就きたいと言ったら賛成するか」の間に大きな差があり、さらに、「関心がある」と「魅力がある」の間にも若干の差がみられる。大多数の若者が介護の仕事は社会に必要だと思う一方で、友達が介護の仕事に就くことには賛成するかでは約半分に減り、さらに魅力があるか否かでは1割強に減り、最終的には介護業界または介護の仕事に就きたいと考える若者は5%程度になることが分かる。この5%を少ないとみる見方はあるが、逆に、1割程度の若者は介護の業界に魅力を感じており、そのうち約半分の5%程度の若者は介護の仕事に積極的に就きたいと考えている見方もできるであろう。



図表4 介護の業界や介護の仕事に対する肯定的な回答の大小関係

ここまで検討してきた質問項目は相互に関連が深いと推測されたので、質問項目間の相関係数を求めた。図表5はその結果である。もっとも関連が深かったのは「あなたは介護

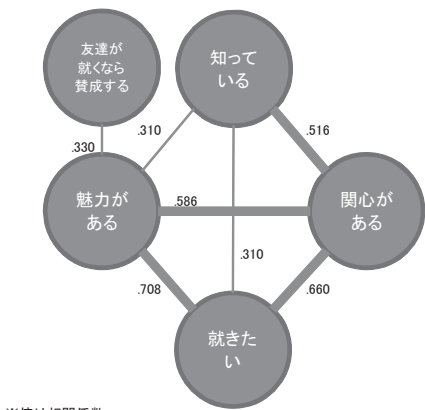
の仕事へ就きたいと考えていますか」と「介護の業界や介護の仕事は、就職先としてどの程度魅力がありますか」であり、相関係数は.708であった。次いで「あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか」と「あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか」の相関係数が.660、さらに「あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか」と「介護の業界や介護の仕事は、就職先としてどの程度魅力がありますか」の相関係数が.586と続いていた。

図表5 介護の業界や介護の仕事に対する意識の相関関係

	知っていますか	関心がありますか	就きたいと考えていますか	魅力がありますか	友達が就職するのなら賛成しますか	社会に必要だと思いますか
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい知っていますか						
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか		.516				
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか	.310		.660			
介護の業界や介護の仕事は、就職先としてどの程度魅力がありますか	.312	.586	.708			
あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか	.170	.254	.281	.330		
あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思いますか	.170	.149	.021	.100	.234	

※.50以上の特に値の大きい相関係数に網かけを付した。

図表6には、図表5で相互に関連が深い質問項目を模式図にまとめた。「関心がある－魅力がある－就きたい」が相互に密接に関連し合っていること、さらに介護の仕事を知っている」ということも深く関連していたことが示される。



※値は相関係数。

図表6 介護の業界や介護の仕事に対する意識の相関関係の模式図

- ここまでの結果をまとめると、以下の3点に集約される。
- 第一に、介護の仕事の必要性については若者に高く評価されているが、友達が介護の仕事に就くと言ったら賛成するかと問われると肯定的な回答は半減していた。
 - 第二に、介護の仕事を知っているか>関心があるか>魅力があるか>就きたいと考えているかの順に肯定的な回答は少なくなり、最終的に介護の仕事に就きたいと回答した若者は全体の5%程度となった。
 - 第三に、介護の仕事に関心があるか、魅力を感じるか、就きたいと思うかは相互に関連

したが、この3つの相関関係に、さらに介護の仕事を知っているかどうかに関連していた。

上記3点から、基本的には、介護の仕事の必要性は高く評価されているものの、実際に就きたいと考える若者は5%程度であるということが示される。ただし、この5%を少ないと見るか否かは検討すべき課題である。5%もの若者が就きたいと考える職業は、むしろ若者によく知られている職業であるということもできる。むしろ、もともと介護に関心のある5%の若者をいかに遺漏なく介護の職業に就いてもらうことができるかが、今後の介護人材の確保に向けた重要なテーマとなる。一方で、介護の仕事に関心をもつ若者は5%と言わず、より拡大して然るべきであり、そのための対応策として、いかに介護の仕事に関心をもってもらるか、介護の仕事を知っているという若者を増やすかが鍵となる。

3. 介護の業界や介護の仕事に対する意識の各要因による違い

前節で検討した介護の業界や介護の仕事に対する意識を様々要因で検討した。その結果、最も大きな違いがみられたのは、性別による違いであった。

(1) 性別による違い

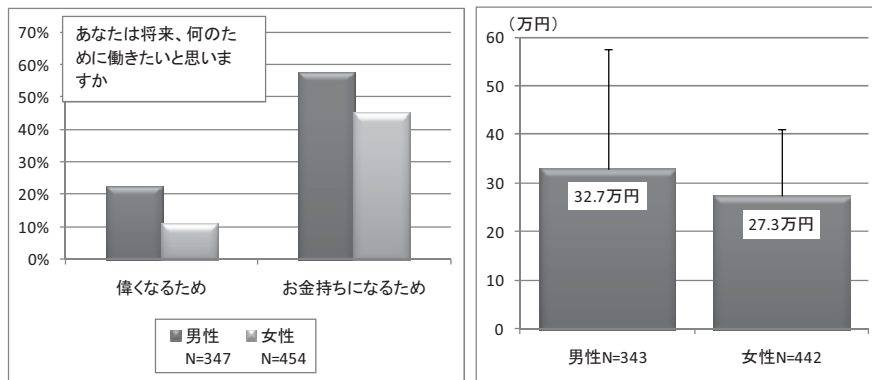
図表7に示したとおり、介護の業界や介護の仕事に対する意識は、概して、女性の方が高かった。女性の方が「介護や介護の仕事を知っている」と回答する割合が高く、その背景には、身のまわりに介護や介護の仕事に就いている人が男性に比べて多いということがある。友達が介護の仕事に就きたいと言っても賛成するといった点からも、女性にとって介護の仕事は身近に感じられるということが示される。

また、女性が介護の仕事に対する意識が高い背景の1つとして、女性の就労観も関連しているようであった。例えば、図表8左に示したとおり、女性は男性に比べて、必ずしも「偉くなるため」「お金持ちになるため」に働きたいと考えている訳ではなかった。実際、介護の仕事をするにあたって希望する月給も女性は少なく、図表8右に示したとおり、男性は32.7万円の給料をもらいたいと考えているのに対して、女性は27.3万円で良いと考えていた。

図表7 介護の業界や介護の仕事に対する意識の性別による違い

		男性 N=347	女性 N=454
あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか。	かなり知っている＋ やや知っている	30.3%	42.1%
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか。	かなり関心がある＋ やや関心がある	21.0%	31.7%
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか。	かなり就きたい＋やや就きたい	3.7%	6.2%
あなたの身のまわりに、介護の仕事に就いている方、または介護の仕事に就いていた方はいますか。	友達や知り合いに いる／いた	13.3%	27.2%
	よく分からない	11.2%	5.1%
	いない	67.1%	56.2%
あなたの身のまわりに、介護を受けている方、または介護を受けていた方はいますか。	家族や親戚に いる／いた	27.7%	35.5%
	いない	60.8%	51.7%
介護の業界や介護の仕事は、就職先としての どの程度魅力がありますか。	かなり魅力がある＋ やや魅力がある	8.9%	14.1%
介護の業界や介護の仕事は、どのくらい資格や専門知識が必要だと思いますか。	かなり必要があると思う＋ やや必要があると思う	89.9%	94.7%
あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか。	かなり賛成する＋ やや賛成する	37.2%	53.1%
あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思いますか。	かなり必要であると思う＋ やや必要であると思う	94.8%	98.7%

※値の大きい方に網かけを付した。



図表8 将来何のために働きたいか(左)および介護の仕事をするにあたって希望する月給(右)の性別による違い

さらに、介護業界での働き方に対する意識について検討した結果、図表9に示すとおり、女性はむしろ介護の仕事を通じて資格を取得し、それを活かすことに対する関心が高かった。また、介護の仕事はやりがいがあるそうだと感じていた。

ただし、その一方で、精神的・体力的なきつさ、人間関係などを重視しており、介護業界で働く女性が気がかりに思う点として、労働負荷や人間関係などの要因があることが示される。

図表9 性別にみた介護関係の業界での働き方に対する意識の違い

	男性 N=347	女性 N=454
介護関係の業界での働き方について、どのようにお考えですか		
資格取得や勉強する機会が充実していそうだ	29.5%	39.4%
仕事にやりがいがありそうだ	54.2%	68.3%
資格や専門知識を活かすことができそうだ	63.3%	76.0%
介護関係の仕事や職場がどのようなであれば、介護関係の仕事で働きたいと思いますか		
介護の仕事が自分に合うなら働きたい	37.9%	47.8%
精神的・体力的にきつくなければ働きたい	33.8%	50.9%
人間関係や職場の雰囲気が良ければ働きたい	30.9%	44.3%

※値の大きい方に網かけを付した。

(2) 在学中か否かによる違い

現在、回答者が在学中か否かによる違いも、性別による違いについて大きかった。

在学中か否かによる違いは、おもに、介護の仕事に対する関心の高さおよび就きたいと考える程度でみられた。図表10に示したとおり、概して、在学中の回答者よりも、在学していない回答者の方が介護に対する関心が高かった。

その背景には、学校を卒業している回答者の中には介護の仕事に就いている友人がおり、その友人の影響があることが推察される。

図表10 介護の業界や介護の仕事に対する意識の在学中か否かによる違い

		在学して いる N=606	在学して いない N=196
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか。	かなり関心がある＋ やや関心がある	26.1%	30.1%
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか。	かなり就きたい＋やや就きたい	3.7%	6.2%
あなたの身のまわりに、介護の仕事に就いている方、または介護の仕事に就いていた方はいますか。	友達や知り合いに いる／いた いない	17.3%	33.0%
		64.0%	51.5%

※値の大きい方に網かけを付した。

一方で、在学中でない回答者は、介護の仕事の労働条件面を重視する傾向がある。図表11に示したとおり、給料や労働条件に対して求めるものが在学中の若者よりも大きくなっている。

図表11 介護業界での働き方に対する意識の在学中か否かによる違い

介護関係の仕事や職場がどのようなであれば、 介護関係の仕事で働きたいと思いますか	在学して いる N=606	在学して いない N=196
仕事内容に対して給料が高ければ働きたい	46.9%	58.2%
労働時間が短いならば働きたい	12.7%	19.9%
人間関係や職場の雰囲気が良ければ働きたい	36.0%	45.9%

※値の大きい方に網かけを付した。

その背景として、図表12に示したとおり、在学していない回答者の方が、働くにあたって金銭面を重視する傾向があることが関連していると推測される。

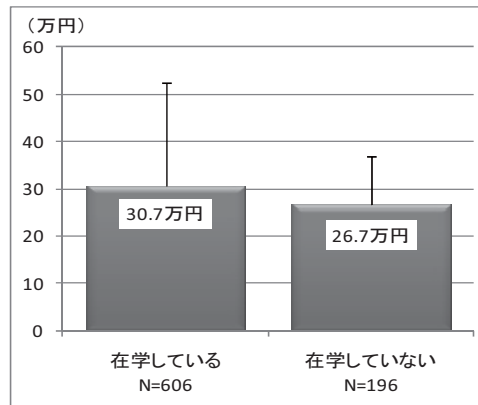
図表12 将来、何のために働きたいかの在学中か否かによる違い

あなたは将来、何のために働きたいと思いますか	在学して いる N=606	在学して いない N=196
偉くなるため	17.5%	10.7%
人に認められるため	54.0%	48.0%
お金持ちになるため	49.9%	52.6%
自分の得意なことを活かすため	75.1%	70.4%
遊ぶの必要なお金を得るため	55.2%	69.3%
人の役に立つため	66.4%	44.4%
世の中を良くするため	44.6%	17.9%

※値の大きい方に網かけを付した。

ただし、在学していない若者の方が労働条件面を重視するとは言え、図表13に示すとおり、介護の仕事をするにあたって希望する給与の額そのものは、在学中の若者よりも低い。

こうした結果の解釈は難しいが、上述したとおり、在学生は「人の役に立つため」「世の中を良くするため」に働きたいという傾向が強く、介護の仕事の重要性を高く評価する傾向があったが、それゆえ相応の報酬を得たいと考えていると解釈されよう。

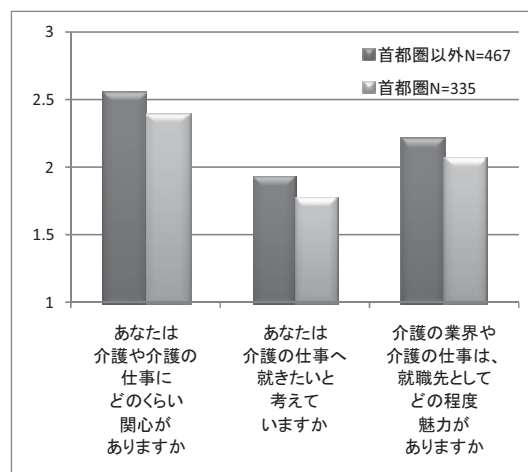


図表13 介護の仕事をするにあたって希望する月給の在学中か否かによる違い

(3) 首都圏か否かによる違いー地域差

本調査では地域差に関する検討を行うことも1つの大きな目的であった。そこで、地域差について検討するために、「北海道・東北」「関東甲信越（首都圏以外）」「首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）」「東海」「関西」「中国四国九州」に分類して検討を行った。しかし、地域を細かく分けて検討した場合には、統計的に有意な地域差はみられなかった。

そこで、「首都圏」と「首都圏以外」に分類して検討を行った。その結果、図表14に示したとおり、首都圏以外の方が、介護や介護の仕事に「関心」があり、「就きたい」と考え、「魅力がある」と考えていることが示された。なお、図表14の縦軸は、「1点」が「まったく関心がない／まったく就きたくない／まったく魅力がない」で、「5点」が「かなり関心がある／かなり就きたい／かなり魅力がある」の平均値であった。



図表14 介護の業界や介護の仕事に対する意識の首都圏か否かによる違い

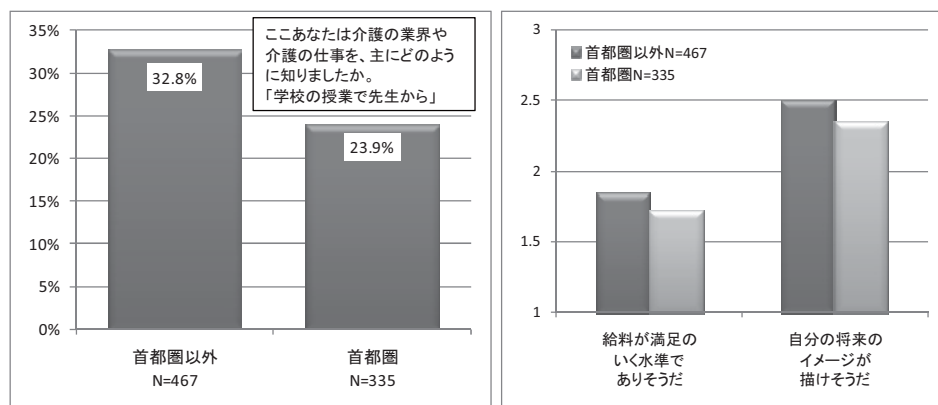
このような結果となる背景として、図表15に示したとおり、首都圏以外の若者の方が身のまわりに介護の仕事についている人が多いということがあある。そのため、介護の仕事に馴染みがあるということが考えられる。

図表15 身近に介護の仕事に就いている人の首都圏か否かによる違い

	首都圏 以外 N=467	首都圏 N=335
家族や親戚にいる／いた	12.5%	6.9%
友達や知り合いにいる／いた	23.0%	18.5%
よく分からない	8.4%	6.9%
いない	56.1%	67.8%

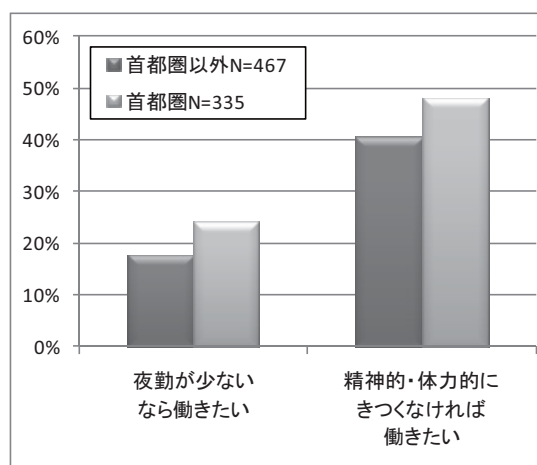
※値の大きい方に網かけを付した。

なお、その他に、首都圏と首都圏以外の若者でみられた違いは、①「学校の授業で先生から」介護の仕事について知った割合、②介護業界を「給料が満足のいく水準である」「自分の将来のイメージが描けそうである」と考える割合であった。図表16に示したとおり、首都圏以外の若者の方が学校の授業で先生から介護の仕事を知った割合が高く、介護業界を肯定的に評価していた。



図表16 介護業界を学校の授業で知った割合(左)および介護業界に対する意識(右)の首都圏か否かによる違い

また、首都圏と首都圏以外の若者を比較した場合、首都圏の若者は「夜勤が少ないなら働きたい」「精神的・体力的にきつくなければ働きたい」と回答する割合が高かった（図表17）。



図表17 「介護関係の仕事や職場がどのようなであれば介護の仕事に就きたいか」の首都圏か否かによる違い

さらに、介護に関連する職場体験等の経験について、首都圏以外の若者は「職場体験学習」で介護を経験している割合が高く、首都圏の若者は「ボランティア」で介護を経験している割合が高かった（図表18）。職場体験学習は、現在、中学校を中心に全国的に取り組まれているが、首都圏では私立学校も多く、介護の職場で体験学習を行う機会が相対的に少ないことも考えられる。今後、私立学校等にも何らかの働きかけを行うことを考慮して良い。

また、首都圏以外では「お年寄りの介護」を経験している割合が高かった。

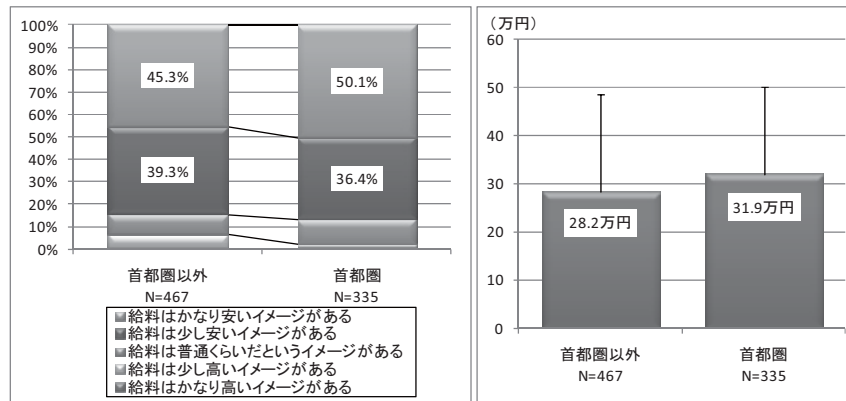
図表18 介護に関連する職場体験等の経験の首都圏か否かによる違い

介護に関連する職場体験等の経験について	首都圏以外 N=467	首都圏 N=335
何で「職場体験学習で」	47.9%	34.9%
何で「ボランティアで」	40.3%	55.8%
どんなことを「お年寄りの介護」	29.4%	14.0%

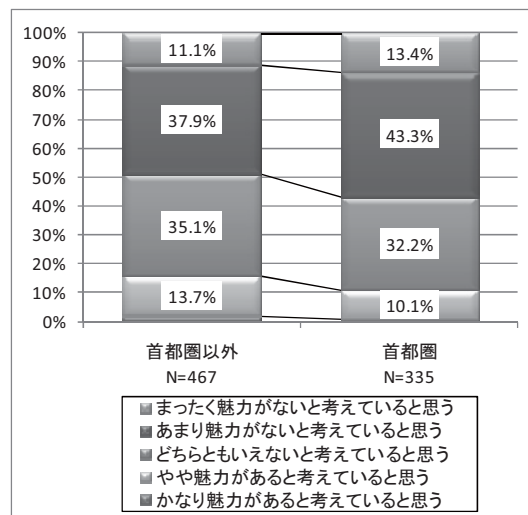
※値の大きい方に網かけを付した。

図表19に示したとおり、給料に関しては、首都圏以外の若者の方が「安いイメージ」であるとする割合が少なかった。また、首都圏以外の若者の方が希望する月給の金額も安かった。

また、図表20に示したとおり、首都圏以外の若者では、「両親が介護の業界や介護の仕事を就職先として魅力があると考えていると思う」という回答が多かった。



図表19 介護の仕事の給料に対するイメージ(左)および
介護の仕事をするにあたって希望する月給(右)の首都圏か否かによる違い



図表20 介護の仕事の給料に対するイメージ(左)および
介護の仕事をするにあたって希望する月給(右)の首都圏か否かによる違い

以上、ここまで、(1)性別による違い、(2)在学中か否かによる違い、(3)首都圏か否かによる違いに関する結果を示した。これら以外の要因でも、様々な要因で介護業界および介護の仕事に対する意識の違いを検討したが、おおむね上記3つの要因による違いが顕著であった。

上記3つの要因による結果は以下の3点に集約される。

第一に、女性の方が、概して介護業界および介護の仕事に対する意識は高かった。基本的に、介護の仕事は女性が興味・関心をもちやすい仕事であるということが言える。特に、女性の場合、必ずしも「お金」のための働くという面は強くなく、むしろ介護の仕事を通じて資格を取得し、それを活かすことに関心が高かった。ただし、精神的・体力的なきつさや人間関係などの要因を気がかりに感じている側面もあり、女性が就労しやすい環境を整備するにあたって、そうした面での配慮がなされれば望ましいと言える。

第二に、在学中か否かでは、既に学校を卒業している既卒者の若者の方が、介護業界お

よび介護の仕事に対する意識は高かった。ただし、既卒者は、在学中の若者に比べれば、「お金」のために働くという意識は強い。また、その他、労働時間や職場の雰囲気などの労働条件面を重視する傾向も強い。既卒者は生活のために働くという面が強いため当然とも言える結果であるが、反面、既卒者の方が介護の仕事をするにあたって希望する給料の額は現実的であり、在学中の若者の方が希望する給料の額は高くなっていた。収入面での改善がより介護の仕事に関心をもってもらうために必要となるのは、学校を卒業者した既卒者の若者に対してであるといえることができる。

第三に、首都圏か否かでは、首都圏以外の若者の方が、概して介護業界および介護の仕事に対する意識は高かった。その主たる理由として、今回の調査結果からは、首都圏以外の若者の方が、身のまわりの家族や親戚、友人や知り合いなどに介護の仕事に就いている者が多く、そのため介護の仕事が身近なものとして受け止められている割合が高いことがある。また、首都圏以外の若者の方が、学校の授業や職場体験学習などでお年寄りの介護の経験をしている割合も高かった。介護の仕事をするにあたって希望する給料の水準も、首都圏に比べると、相対的に安くても良いとする回答がみられており、首都圏以外の若者の中では、首都圏の若者に比べれば、介護の仕事の相対的な位置づけは高いといえる結果となった。

以上、女性の活用のためには労働負荷の軽減、人間関係の重視といった配慮が必要であり、既卒の若者の活用のためには収入面での改善がよりいっそう必要となるといえるであろう。

4. 介護の仕事に「就きたい」と希望する若者の特徴

先に図表3および図表4で、今回の調査では、介護の仕事に「かなり就きたい」「やや就きたい」と回答した若者が5.1%（41名）いたことを示した。

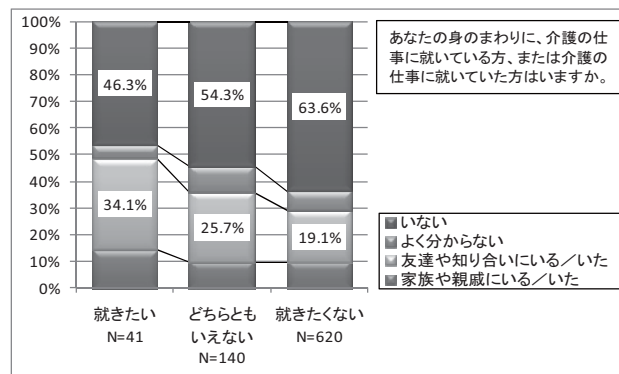
そこで、介護の仕事に「就きたい」と答えたこの41名の若者は、介護の仕事に「就きたくない」または「どちらともいえない」と答えた若者と比べて、どのような点で違いがあるのかを検討することとした。

上記の検討を通じて、介護の仕事に就きたいと考える若者の特徴を明らかにすることによって、介護の業界に対する若者の興味や関心を高め、介護の仕事に就きたいと考える若者を増やすための手がかりが得られるものと考えられる。

(1)「身のまわりに介護の仕事に就いていた人がいたか、介護をうけていた人がいたか」

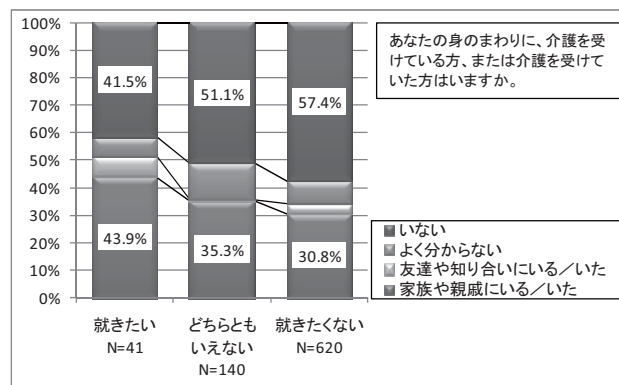
まず、はじめに「身のまわりに介護の仕事についていた人がいたか、介護をうけていた人がいたか」を取り上げる。

図表2-1に示したとおり、介護の仕事に「就きたい」と思う若者は、身のまわりに介護の仕事に就いていた人がいる割合が多い。



図表21 「身の回りに介護の仕事に就いている人がいるか否か」の就職希望別の違い

また、図表22に示したとおり、介護の仕事に「就きたい」と思う若者は、身のまわりに介護を受けていた人が多い。特に、「家族や親戚に／いた」という回答が多い。



図表22 「身の回りに介護を受けている人がいるか否か」の就職希望別の違い

図表23でさらに掘り下げて検討した結果、「家族や親戚」または「友達や知り合い」に介護の仕事に就いている人がいた回答者は、総じて、介護の業界や介護の仕事に対する意識が高く、介護の仕事に関心をもっているようであった。

図表23 介護の業界や介護の仕事に対する意識の
「身の回りに介護の仕事に就いている人がいるか否か」による違い

あなたの身のまわりに、介護の仕事に就いている方、または介護の仕事に就いていた方はいますか。		家族や親戚に／いた N=81	友達や知り合いに／いた N=169	よく分からない N=62	いない N=488
あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか	かなり知っている＋やや知っている	56.8%	53.3%	29.0%	29.1%
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか	かなり関心がある＋やや関心がある	35.8%	42.0%	21.0%	21.3%
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか	かなり就きたい＋やや就きたい	7.4%	8.3%	3.2%	3.9%
介護の業界や介護の仕事は、就職先としての程度魅力がありますか	かなり魅力がある＋やや魅力がある	14.8%	24.9%	3.2%	8.0%
介護の業界や介護の仕事は、どのくらい資格や専門知識が必要だと思いますか	かなり必要だと思う＋やや必要だと思う	96.3%	94.6%	82.2%	92.5%
あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか	かなり賛成する＋やや賛成する	51.9%	58.0%	43.5%	41.6%
あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思いますか	かなり必要であると思う＋やや必要であると思う	100.0%	97.0%	93.5%	96.9%

※各質問項目で最も大きな値に網かけを付した。

また、図表24に示したとおり、介護を受けている人が「家族や親戚にいる」「友達や知り合いにいる」回答者も、総じて、介護の業界や介護の仕事に対する意識が高く、介護の仕事に関心をもっているようであった。

図表24 介護の業界や介護の仕事に対する意識の
「身の回りに介護を受けている人がいるか否か」による違い

あなたの身のまわりに、介護を受けている方、または介護を受けていた方はいますか。		家族や親戚に いる／いた N=258	友達や知 り合いに いる／い たN=25	よく分 からない N=73	いない N=445
あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか	かなり知っている＋ やや知っている	48.0%	60.0%	27.4%	30.6%
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか	かなり関心がある＋ やや関心がある	40.0%	28.0%	23.3%	20.0%
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか	かなり就きたい＋ やや就きたい	7.0%	12.0%	4.1%	3.8%
介護の業界や介護の仕事は、就職先としての程度魅力がありますか	かなり魅力がある＋ やや魅力がある	15.1%	12.0%	12.3%	9.7%
介護の業界や介護の仕事は、どのくらい資格や専門知識が必要だと思いますか	かなり必要だと思う＋ やや必要だと思う	96.5%	92.0%	89.1%	90.7%
あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか	かなり賛成する＋ やや賛成する	50.0%	40.0%	49.4%	43.6%
あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思いますか	かなり必要であると思う＋ やや必要であると思う	97.7%	96.0%	93.2%	97.3%

※各質問項目で最も大きな値に網かけを付した。

(2) 介護の業界や介護の仕事をどのように知ったか

次に、介護の業界や介護の仕事をどのように知ったかについて検討した。

図表25に示したとおり、介護の仕事に「就きたい」と思う若者は、全般的に様々な人・媒体・メディアを通じて介護の仕事を知ったようであるが、特に、「親と話をして」「職場体験やボランティアで」「学校の授業で先生から」介護の業界や介護の仕事を知った割合が高い。

それに対して、介護の仕事に「就きたくない」と思う若者は、「本、映画、テレビから」介護の業界や介護の仕事を知った割合が高いのが特徴である。

図表25 「介護の仕事をどのように知ったか」の就職希望別の違い

	就きたい N=41	どちら とも いえない N=140	就きたく ない N=620	就きたくい ない 就きたくない (差)
親と話をして	53.8%	35.0%	24.4%	29.4%
兄弟姉妹や親戚と話をして	24.4%	12.1%	8.2%	16.2%
友達同士で話をして	31.7%	23.6%	20.0%	11.7%
先輩と話をして	12.2%	7.1%	2.7%	9.5%
職場体験やボランティアで	51.2%	30.7%	18.4%	32.8%
学校の授業で先生から	53.7%	35.0%	26.0%	27.7%
本、映画、テレビから	43.9%	57.9%	67.4%	-23.5%
その他	7.3%	2.1%	6.3%	1.0%

※各質問項目で最も大きな値に網かけを付した。

上記の点について、さらに掘り下げて検討を行うために「親と話をして」介護業界を知

った若者とそれ以外の若者を比較した。その結果、図表 26 に示したとおり、「親と話をし
て」介護業界を知ったと回答した者は、概して介護業界や介護の仕事に対する評価が高い。

なお、「親と話をして」介護業界を知ったと回答した若者とそれ以外の若者は、家族や親
戚に介護の仕事に就いていたか介護を受けていた割合で特に差が大きく開いており、親を
中心に家族全体が介護に馴染みが深かったことも推察される。

**図表26 介護の業界や介護の仕事に対する意識の
「親と話をして」介護業界を知った回答者とそれ以外の回答者の違い**

あなたは介護の業界や介護の仕事を、主にどのように知りましたか。		親と話を して N=222	それ以外 N=580	(差)
あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか	かなり知っている＋ やや知っている	50.5%	31.8%	18.7%
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか	かなり関心がある＋ やや関心がある	39.2%	22.4%	16.8%
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか	かなり就きたい＋ やや就きたい	9.9%	3.3%	6.6%
あなたは身のまわりに、介護の仕事に就いている方、または介護の仕事に就いていた方はいますか	家族や親戚にいた	19.4%	6.6%	12.8%
あなたの身のまわりに、介護を受けている方、または介護を受けていた方はいますか	家族や親戚にいた	45.9%	26.9%	19.0%
介護の業界や介護の仕事は、就職先としてどの程度魅力がありますか	かなり魅力がある＋ やや魅力がある	17.2%	9.8%	7.4%
介護の業界や介護の仕事は、どのくらい資格や専門知識が必要だと思いますか	かなり必要があると思う＋ やや必要があると思う	95.9%	91.2%	4.7%
あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか	かなり賛成する＋ やや賛成する	48.2%	45.4%	2.8%
あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思いますか	かなり必要であると思う＋ やや必要であると思う	98.0%	96.7%	1.3%

※(差)が10%以上の箇所に網かけを付した。

同様に、「学校の授業で先生から」介護業界を知ったと回答した若者について、それ以外
の若者と比較した。その結果、図表 27 に示したとおり、「学校の授業で先生から」介護業
界を知ったと回答した者は、概して介護業界や介護の仕事に対する評価が高かった。「学校
の授業で先生から」介護業界を知ったと回答した若者とそれ以外の若者では、「友人が介護
の仕事に就きたいと言ったら賛成するか」「魅力はあるか」といった介護の仕事を選好する
程度で差が大きく開いているようであった。

上述の「親と話して」「学校の授業で先生から」介護業界を知ったと回答した若者と比較
するために、「本、映画、テレビから」介護業界を知ったと回答した若者とそれ以外の若者
も比較した。その結果、図表 28 に示したとおり、「本、映画、テレビから」介護業界を知
ったと回答した者は、それ以外の者に比べて、概して、介護業界や介護の仕事に対する評
価が低かった。特に「介護の仕事をどの程度知っているか」で差が大きく開いていたこと
から、「本、映画、テレビ」だけでは介護の仕事を知るのに十分ではないものと推測される。

**図表27 介護の業界や介護の仕事に対する意識の
「学校の授業で先生から」介護業界を知った回答者とそれ以外の回答者の違い**

あなたは介護の業界や介護の仕事、主にどのように知りましたか。		学校の授業で先生から N=233	それ以外 N=569	(差)
あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか	かなり知っている＋ やや知っている	45.1%	33.6%	11.5%
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか	かなり関心がある＋ やや関心がある	34.3%	24.1%	10.2%
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか	かなり就きたい＋ やや就きたい	9.5%	3.3%	6.2%
あなたは身のまわりに、介護の仕事に就いている方、または介護の仕事に就いていた方はいますか	友達や知り合いにいた	26.2%	19.0%	7.2%
あなたの身のまわりに、介護を受けている方、または介護を受けていた方はいますか	家族や親戚にいた	35.3%	30.9%	4.4%
介護の業界や介護の仕事は、就職先としての程度魅力がありますか	かなり魅力がある＋ やや魅力がある	19.8%	8.6%	11.2%
介護の業界や介護の仕事は、どのくらい資格や専門知識が必要だと思いますか	かなり必要があると思う＋ やや必要があると思う	94.5%	91.7%	2.8%
あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか	かなり賛成する＋ やや賛成する	58.4%	41.2%	17.2%
あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思いますか	かなり必要であると思う＋ やや必要であると思う	99.2%	96.1%	3.1%

※(差)が10%以上の箇所に網かけを付した。

**図表28 介護の業界や介護の仕事に対する意識の
「本、映画、テレビから」介護業界を知った回答者とそれ以外の回答者の違い**

あなたは介護の業界や介護の仕事、主にどのように知りましたか。		本、映画、テレビから N=517	それ以外 N=285	(差)
あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか	かなり知っている＋ やや知っている	31.3%	47.0%	-15.7%
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか	かなり関心がある＋ やや関心がある	30.1%	30.6%	-0.5%
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか	かなり就きたい＋ やや就きたい	3.5%	8.1%	-4.6%
あなたは身のまわりに、介護の仕事に就いている方、または介護の仕事に就いていた方はいますか	友達や知り合いにいた	17.1%	28.5%	-11.4%
あなたの身のまわりに、介護を受けている方、または介護を受けていた方はいますか	家族や親戚にいた	27.5%	40.8%	-13.3%
介護の業界や介護の仕事は、就職先としての程度魅力がありますか	かなり魅力がある＋ やや魅力がある	9.3%	16.5%	-7.2%
介護の業界や介護の仕事は、どのくらい資格や専門知識が必要だと思いますか	かなり必要があると思う＋ やや必要があると思う	91.7%	94.1%	-2.4%
あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか	かなり賛成する＋ やや賛成する	43.9%	50.2%	-6.3%
あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思いますか	かなり必要であると思う＋ やや必要であると思う	98.5%	94.4%	4.1%

※(差)が10%以上の箇所に網かけを付した。

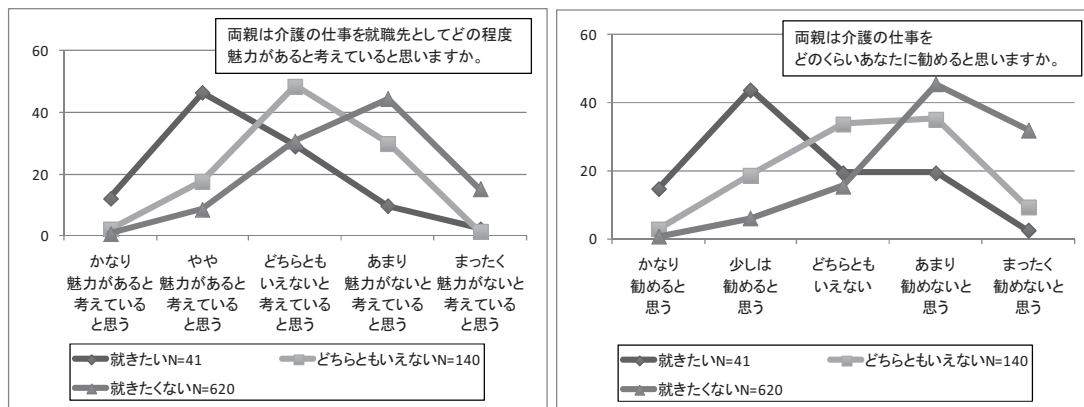
以上、「親と話して」「学校の授業で先生から」「本、映画、テレビから」の結果からは、
(1) 学校の授業で先生からのプラス効果が大きく、(2) 本・映画・テレビからのマイナス効果が大きいということが示される。子どもが職業について学校の先生の影響を受けやすいことが明らかになったことから、今後、学校の先生が介護の知識を得て、子ども達に仕事の魅力を紹介していくことが対策として考えられる。また、テレビ等の報道の内容には改めてマイナス面に偏っていないか等の注意が必要となるであろう。

(3) 家族の影響および友人の影響

家族の影響および友人の影響を検討するために、まず、両親が介護の仕事で就職先としてどの程度魅力があると考えていると思うか、また、両親は介護の仕事をどのくらい勧められると思うかについて、介護の仕事に「就きたい」と思う若者と「就きたくない」若者、どちらともいえない若者を比較した。

その結果、図表29に示したとおり、介護の仕事に「就きたい」と思う若者では「やや魅力があると考えていると思う」「少しは勧められると思う」という回答が最も多かったのに対して、「就きたくない」と思う若者では「あまり魅力がないと考えていると思う」「あまり勧めないと思う」という回答が多かった。

介護の仕事に「就きたい」と考えている若者は、両親が介護の仕事に魅力があると考えており、介護の仕事を勧めると考えていることが示された。

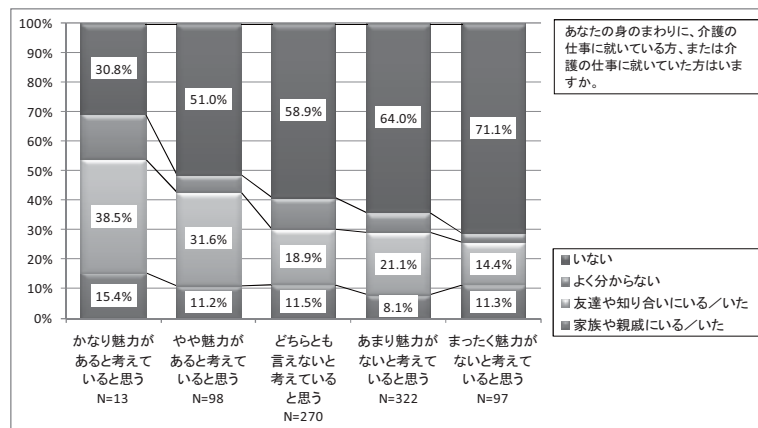


図表29 「両親は介護の仕事を魅力的と考えているか」(左)、
「両親は介護の仕事をどのくらい勧められると思うか」の就職希望別の違い

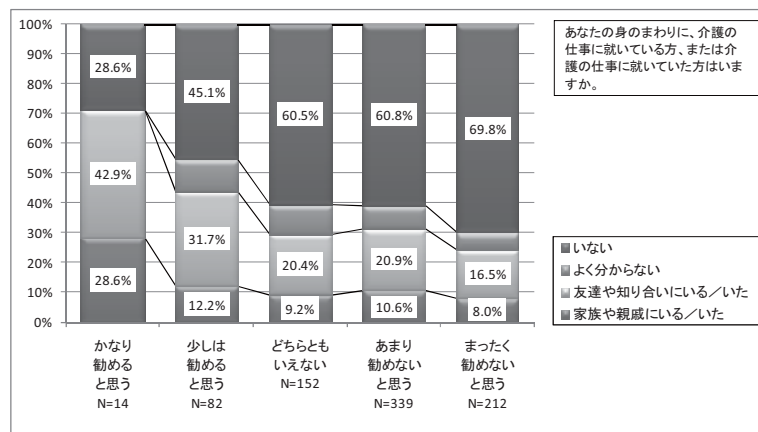
ちなみに、図表30および図表31に示すとおり、「両親は介護の仕事を魅力的と考えていると思う」と答えた若者および「両親は介護の仕事を勧められると思う」と答えた若者は、身のまわりに家族や親戚、友人や知り合いなど、何らかの形で身近に介護の仕事に就いている人がいる割合が高かった。

例えば、図表30では、両親は介護の仕事を「かなり魅力があると考えていると思う」では身のまわりに介護の仕事に就いている人が「友達や知り合いにいる」という回答が38.5%となっている。同様に、図表31では、両親は介護の仕事を「かなり勧められると思う」では「友達や知り合いにいる」という回答が42.9%となっている。

「家族や親戚にいる」という回答についても、図表30および図表31では同じ傾向がみられており、身近に介護の仕事についている人がいるということと、両親が介護の仕事に肯定的であるということ、さらには、本人が介護の仕事に就きたいと思うことの間には密接な関連があることがうかがえる。

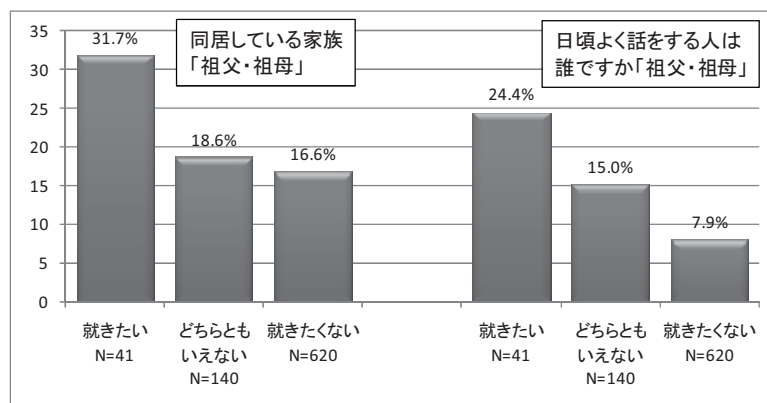


図表30 「身のまわりに介護の仕事に就いている人がいるか否か」の「両親は介護の仕事の魅力を考えているか」別にみた違い



図表31 「身のまわりに介護の仕事に就いている人がいるか否か」の「両親は介護の仕事を勧めるか」別にみた違い

なお、介護の仕事に「就きたい」と思う若者は、図表32に示すとおり、「祖父・祖母」と同居している割合が高く、「祖父・祖母」と日頃よく話をしている割合も高かった。



図表32 同居している家族、日頃よく話をする人の就職希望別の違い

さらに掘り下げて検討した結果、「祖父母と同居」と答えた回答者は、図表 3 3 に示すとおり、介護や介護の仕事に対する関心が高く、介護の仕事に魅力があると回答する割合が高かった

図表33 介護の業界や介護の仕事に対する意識の祖父・祖母と同居か否かによる違い

あなたが同居している家族について、あてはまるものを全てお答えください		祖父、祖母と同居 N=143	祖父、祖母と同居せず N=658	(差)
あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか	かなり知っている＋ やや知っている	40.6%	36.0%	4.6%
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか	かなり関心がある＋ やや関心がある	37.1%	24.9%	12.2%
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか	かなり就きたい＋ やや就きたい	9.1%	4.3%	4.8%
介護の業界や介護の仕事は、就職先としてどの程度魅力がありますか	かなり魅力がある＋ やや魅力がある	17.5%	10.7%	6.8%
介護の業界や介護の仕事は、どのくらい資格や専門知識が必要だと思いますか	かなり必要があると思う＋ やや必要があると思う	91.0%	92.8%	-1.8%
あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか	かなり賛成する＋ やや賛成する	44.8%	46.5%	-1.7%
あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思いますか	かなり必要であると思う＋ やや必要であると思う	97.9%	96.8%	1.1%

※(差)が5%以上の箇所に網かけを付した。

同様に、「祖父母とよく話をする」と答えた回答者は、図表 3 4 に示すとおり、介護や介護の仕事をよく知っており、介護の仕事に対する関心が高く、介護の仕事に就きたいと考え、介護の仕事に魅力があると回答する割合が高かった

図表34 介護の業界や介護の仕事に対する意識の祖父・祖母とよく話をするか否かによる違い

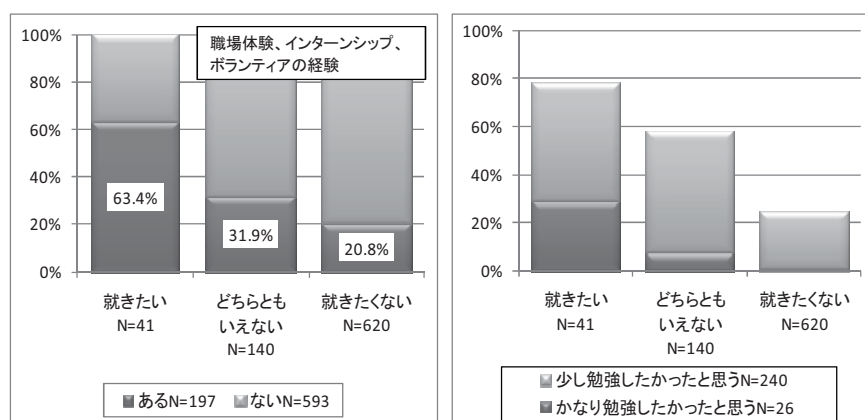
日頃の生活でよく話をする人は誰ですか		祖父、祖母と良く話をする N=80	祖父、祖母と話をしない N=720	(差)
あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか	かなり知っている＋ やや知っている	47.5%	35.7%	11.8%
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか	かなり関心がある＋ やや関心がある	35.1%	25.1%	10.0%
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか	かなり就きたい＋ やや就きたい	12.5%	4.3%	8.2%
介護の業界や介護の仕事は、就職先としてどの程度魅力がありますか	かなり魅力がある＋ やや魅力がある	20.0%	11.0%	9.0%
介護の業界や介護の仕事は、どのくらい資格や専門知識が必要だと思いますか	かなり必要があると思う＋ やや必要があると思う	95.0%	92.3%	2.7%
あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか	かなり賛成する＋ やや賛成する	48.8%	45.9%	2.9%
あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思いますか	かなり必要であると思う＋ やや必要であると思う	97.5%	96.0%	1.5%

※(差)が5%以上の箇所に網かけを付した。

(4)学校における職場体験やボランティアの影響

学校における職場体験やボランティアの影響について検討を行った。

その結果、介護の仕事に「就きたい」と思う若者は、学校で介護の仕事を体験している割合が高く（図表 3 5 左）、また、もっと勉強したかったと考えている（図表 3 5 右）ことが示された。



図表35 介護に関する職場体験・インターンシップ・ボランティアの経験(左)、介護の仕事を勉強したかったと考える割合(右)の就職希望別の違い

また、これまでに、介護に関連する職場体験、インターンシップ、ボランティアの経験がある若者は、図表36に示したとおり、総じて、介護業界や介護の仕事に対する評価が高かった。

特に、経験の「あり」の若者と「なし」の若者で差が大きいのは、介護の仕事をどのくらい「知っているか」であり、経験のある若者となし若者では30%以上の開きがあった。同様に、「介護の仕事にどの程度関心があるか」「友達が介護の仕事をすると言ったら賛成するか」といった質問に対する回答でも経験のある若者となし若者で開きがみられた。

図表36 介護に関する職場体験・インターンシップ・ボランティアの経験の有無別の介護の業界や介護の仕事に対する意識

あなたは介護に関連する職場体験、インターンシップ、ボランティアなどの経験がありますか		あり N=197	なし N=594	(差)
あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか	かなり知っている＋ やや知っている	59.9%	29.3%	30.6%
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか	かなり関心がある＋ やや関心がある	45.7%	20.8%	24.9%
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか	かなり就きたい＋ やや就きたい	13.2%	2.5%	10.7%
あなたは身のまわりに、介護の仕事に就いている方、または介護の仕事に就いていた方はいますか	友達や知り合いにいた	34.5%	16.4%	18.1%
あなたの身のまわりに、介護を受けている方、または介護を受けていた方はいますか	家族や親戚にいた	37.8%	30.1%	7.7%
介護の業界や介護の仕事は、就職先としてどの程度魅力がありますか	かなり魅力がある＋ やや魅力がある	24.4%	7.7%	16.7%
介護の業界や介護の仕事は、どのくらい資格や専門知識が必要だと思いますか	かなり必要があると思う＋ やや必要があると思う	93.4%	92.1%	1.3%
あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか	かなり賛成する＋ やや賛成する	60.4%	41.4%	19.0%
あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思いますか	かなり必要であると思う＋ やや必要であると思う	97.4%	96.8%	0.6%

※(差)が10%以上の箇所に網かけを付した。

介護に関する職場体験・インターンシップ・ボランティアをどの年代で経験したかによって、介護の仕事に対する意識の違いを検討した結果、総じて言えば、「大学生の頃」のように、学校段階が上になってから体験した若者の方が介護の仕事に対する意識は高いよう

であった。これは、学校段階が上になればなるほど、介護に興味・関心のある若者が自発的・自覚的に介護の仕事を体験したり、実習を行ったり、ボランティアをすることといったことが多くなるからであると解釈できる。

ただし、どの年代で経験していたとしても、何も経験していない「経験なし」よりは、介護に対する意識は全般的に高いことが分かる。小学生の頃、中学生の頃の体験は必ずしも自発的・自覚的に行ったのではないとも思われるが、それでも「経験なし」よりは意識が全般的に高い。改めて、介護に関する職場体験・インターンシップ・ボランティアを経験することの意義が示されたと言える。特に、小学生の頃または中学生の頃に体験したと回答した者は「友達が介護の仕事に就きたいと言ったら賛成するか」に肯定的に回答する割合が高かった。この点について、高齢者とのふれあいの中で、人に喜ばれることを体験し、役に立つことをうれしく感じることは記憶に強く残るとも言われている。純粋な小学生、多感な中学生にとって、介護施設を訪問し、お年寄りと触れ合うといった職場体験をすることは、たとえ自発的・自覚的でなくても影響力は大きい。小中学生時代の体験の重要性が示されたと言えよう。

図表37 介護に関する職場体験・インターンシップ・ボランティアをいつ経験したか別の介護の業界や介護の仕事に対する意識

あなたは介護に関連する職場体験、インターンシップ、ボランティアなどの経験がありますか「いつ経験しましたか」	小学生の頃 N=37	中学生の頃 N=61	高校生の頃 N=41	大学生の頃 N=44	経験なし N=594
あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか	48.6%	50.8%	61.0%	72.7%	29.3%
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか	35.1%	34.4%	46.3%	61.4%	20.8%
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか	2.7%	9.8%	14.7%	22.7%	2.5%
あなたは身のまわりに、介護の仕事に就いている方、または介護の仕事に就いていた方はいますか	24.3%	23.0%	53.7%	36.4%	16.4%
あなたの身のまわりに、介護を受けている方、または介護を受けていた方はいますか	45.9%	29.5%	41.5%	34.9%	30.1%
介護の業界や介護の仕事は、就職先としての程度魅力がありますか	10.8%	18.0%	26.9%	38.6%	7.7%
介護の業界や介護の仕事は、どのくらい資格や専門知識が必要だと思いますか	94.6%	90.2%	97.6%	97.7%	92.1%
あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか	62.2%	70.5%	58.6%	50.0%	41.4%
あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思いますか	100.0%	98.4%	97.5%	95.5%	96.8%

※各項目で最も値が高い欄に網かけを付した。また、最も値が低い欄に下線を付した。

図表38は、どのような形で介護の経験したかをたずねた回答と、介護に対する意識を検討した結果である。どの質問項目でも「その他」の回答が多くなっていた。その他の回答欄にあった自由記述欄を調べたところ、「その他」の回答はおもに大学や専門学校での「実習」が中心であった。大学や専門学校での実習は、もともと介護の仕事に就く予定の学生が行うので、全般的に介護に対する意識が高いという結果となったと推察される。

ただし、やはり、ここでも、全く「経験なし」の若者よりは、職場体験・インターンシップ、ボランティアなどどのような形であっても、何らかの形で介護を経験している場合には、介護に対する意識が高いことが示された。学校段階で何らかの形で介護を経験しておくことが、介護の仕事に対する意識全般を高めるということが示される結果となっている。

図表39は、介護に関する職場体験・インターンシップ、ボランティアで何を経験したか別に介護の仕事に対する意識を検討した結果である。基本的に、**介護の仕事**を直接体験した若者が全般的に最も介護に対する意識が高い。ただし、ここでも、「話し相手・掃除その他」といった直接、介護に関連のない補助的な仕事の体験であっても、介護関連の仕事であれば、全く「経験なし」よりは介護に対する意識が高くなっているのが分かる。

図表38 介護に関する職場体験・インターンシップ・ボランティアを何で経験したか別の介護の業界や介護の仕事に対する意識

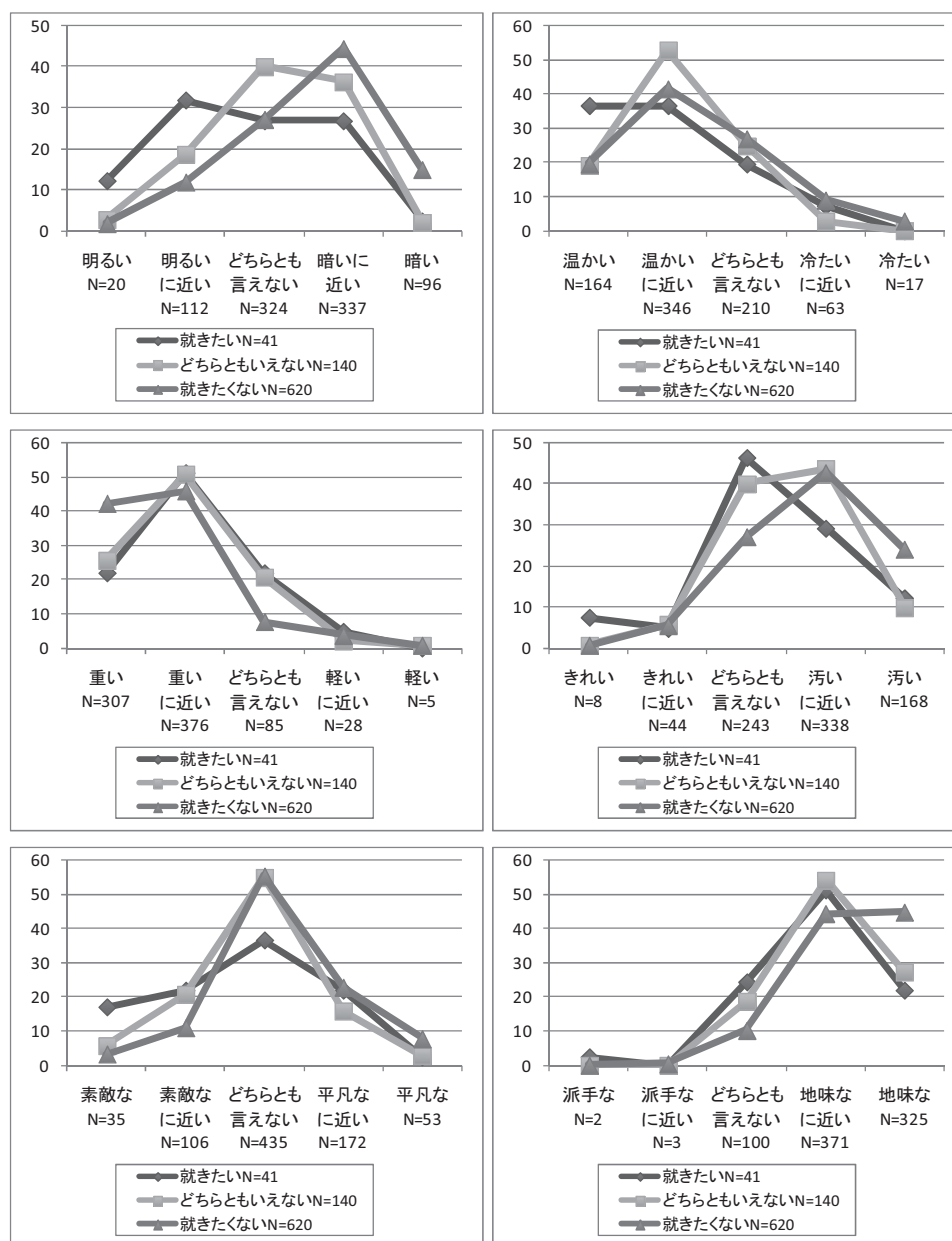
あなたは介護に関連する職場体験、インターンシップ、ボランティアなどの経験がありますか「何で経験しましたか」	職場体験・インターンシップで N=81	ボランティアで N=94	その他 (実習等) N=30	経験なし N=594
あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか	かなり知っている＋やや知っている 53.1%	58.5%	80.0%	<u>29.3%</u>
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか	かなり関心がある＋やや関心がある 39.5%	45.7%	56.7%	<u>20.8%</u>
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか	かなり就きたい＋やや就きたい 7.4%	14.9%	20.0%	<u>2.5%</u>
あなたは身のまわりに、介護の仕事に就いている方、または介護の仕事に就いていた方はいますか	友達や知り合いにいた 22.2%	42.6%	46.7%	<u>16.4%</u>
あなたの身のまわりに、介護を受けている方、または介護を受けていた方はいますか	家族や親戚にいた 37.0%	36.2%	51.7%	<u>30.1%</u>
介護の業界や介護の仕事は、就職先としての程度魅力がありますか	かなり魅力がある＋やや魅力がある 18.5%	25.5%	33.3%	<u>7.7%</u>
介護の業界や介護の仕事は、どのくらい資格や専門知識が必要だと思えますか	かなり必要があると思う＋やや必要があると思う 96.3%	<u>91.5%</u>	93.3%	92.1%
あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか	かなり賛成する＋やや賛成する 61.7%	62.8%	50.0%	<u>41.4%</u>
あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思えますか	かなり必要であると思う＋やや必要であると思う 97.5%	96.8%	100.0%	96.8%

図表39 介護に関する職場体験・インターンシップ・ボランティアでどんなことを経験したか別の介護の業界や介護の仕事に対する意識

あなたは介護に関連する職場体験、インターンシップ、ボランティアなどの経験がありますか「どんなことを経験しましたか」	話し相手 掃除 その他 N=160	介護 N=45	経験なし N=594
あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか	かなり知っている＋やや知っている 56.3%	71.1%	<u>29.3%</u>
あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか	かなり関心がある＋やや関心がある 41.9%	55.5%	<u>20.8%</u>
あなたは介護の仕事へ就きたいと考えていますか	かなり就きたい＋やや就きたい 10.6%	20.0%	<u>2.5%</u>
あなたは身のまわりに、介護の仕事に就いている方、または介護の仕事に就いていた方はいますか	友達や知り合いにいた 35.0%	35.6%	<u>16.4%</u>
あなたの身のまわりに、介護を受けている方、または介護を受けていた方はいますか	家族や親戚にいた 39.4%	36.4%	<u>30.1%</u>
介護の業界や介護の仕事は、就職先としての程度魅力がありますか	かなり魅力がある＋やや魅力がある 21.9%	31.1%	<u>7.7%</u>
介護の業界や介護の仕事は、どのくらい資格や専門知識が必要だと思えますか	かなり必要があると思う＋やや必要があると思う 93.2%	95.6%	<u>92.2%</u>
あなたは、ご自身の友達が介護分野や介護の仕事に就きたいと言ったら賛成しますか	かなり賛成する＋やや賛成する 60.3%	58.8%	<u>41.4%</u>
あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思えますか	かなり必要であると思う＋やや必要であると思う 98.8%	<u>93.4%</u>	96.8%

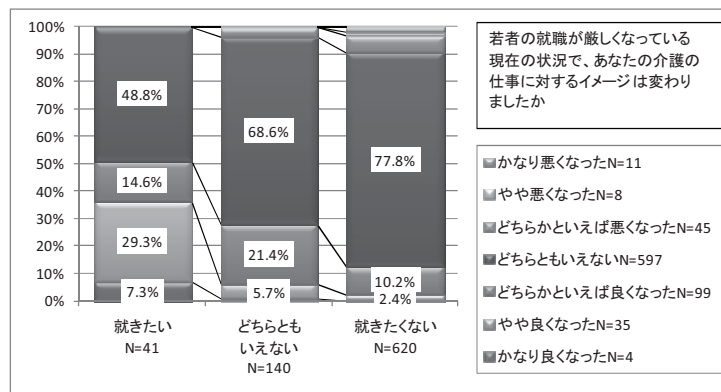
(5)介護業界および介護のイメージに対するイメージ

介護の仕事に対するイメージをたずねた結果、図表40に示したとおり、介護の仕事に「就きたい」と思う若者は「明るい」「温かい」「素敵」と捉えていた。一方、介護の仕事に「就きたくない」と思う若者は「暗い」「重い」「汚い」「地味」と捉えていた。



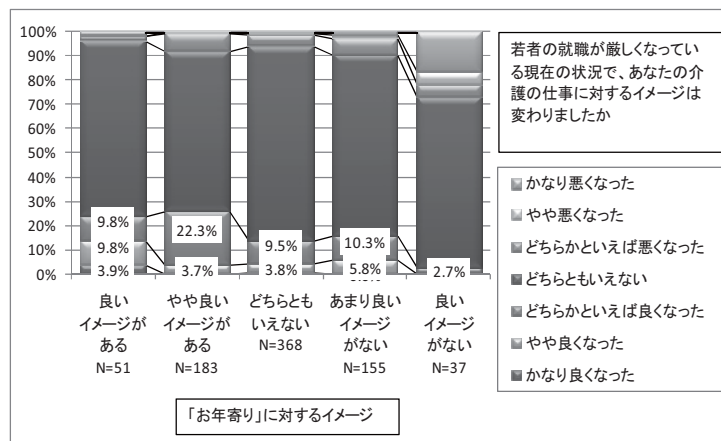
図表40 介護業界および介護の仕事に対するイメージの就職希望別の違い

現在、若者の就職が厳しくなっている状況があるが、この状況下で介護の仕事に対するイメージが良い方向に変化した若者は、図表41に示したとおり、介護の仕事に「就きたい」と考えている若者に多い。介護の仕事のイメージが良い方向に変化した結果、介護の仕事に就きたいと考えるようになったと考えられるが、もともと介護との仕事に就きたいと考えていた若者の介護に対するイメージがよりいっそう良くなったとも考えられる。



図表41 「介護業界および介護の仕事に対するイメージの変化」の就職希望別の違い

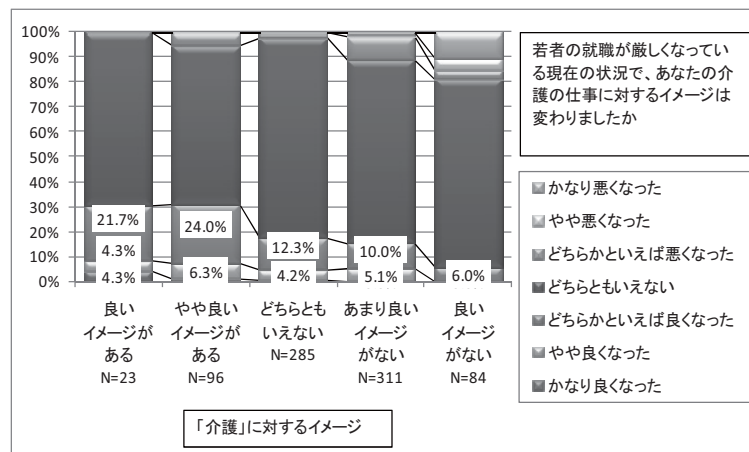
ただし、図表42の結果に示すとおり、現在、介護の仕事に対するイメージが良い方向に変化した若者には、もともと「お年寄り」に良いイメージをもっている若者が多い。



図表42 「お年寄り」に対するイメージ変化の「介護業界および介護の仕事に対するイメージの変化」別の違い

また、図表43に示したとおり、現在、介護の仕事に対するイメージが良い方向に変化した若者には、もともと「介護」に良いイメージをもっている若者が多い。

ここまでの結果のみでは確かなことが言えないが、若者の就職が厳しくなっている現在の状況下でも、介護の仕事のイメージがあまり良い方向に変化しなかった若者は、もともと介護の仕事に就きたいと考えていない若者、「お年寄り」や「介護」に対して良いイメージを持っていない若者であると言えるであろう。これは就職難を受けても、介護業界の人材確保に直接はつながらないということを示すものであり、今後、こうした若者層に対してイメージアップの取り組みを考えていく必要があるであろう。



図表43 「介護」に対するイメージ変化の
「介護業界および介護の仕事に対するイメージの変化」別の違い

(6) 職業意識および収入に対する意識について

介護の仕事に「就きたい」と考える若者が、どのような職業意識をもっているのか、また、収入についてどのように考えているのかを検討した。

まず、図表44に示したとおり、介護の仕事に「就きたい」と思う若者は、「人と仲良くするため」「人の役に立つため」と回答する割合が高く、「お金持ちになるため」「遊ぶのに必要なお金を得るため」「貧乏にならないため」と回答する割合は低かった。

この図表から、介護の仕事に就きたいと考える若者は、基本的に、人と協力しあって役に立つために働きたいと考えており、必ずしも「お金」を得るために働きたいと考えている訳ではないことが示される。むしろ、介護を希望しない一般の若者に比べた場合、介護の仕事を希望する若者は、必ずしも収入面を重視している訳ではないという傾向がみられる。

図表44 「将来、何のために働きたいと思いますか」の就職希望別の違い

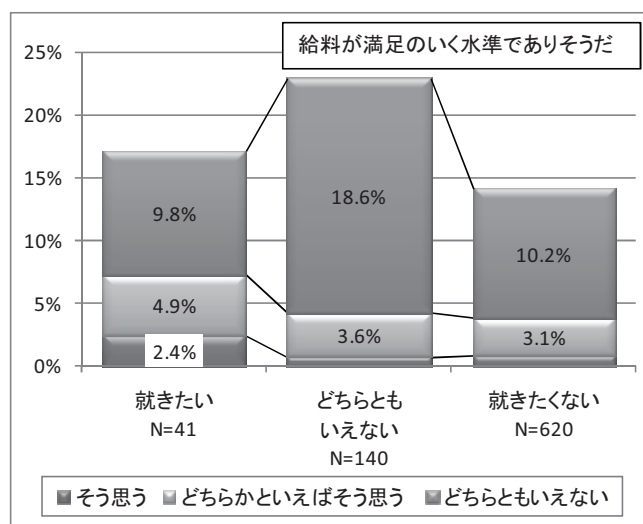
将来、何のために働きたいと思いますか	就きたい N=41	どちらとも いえない N=140	就きたくない N=620	就きたいー 就きたくない (差)
偉くなるため	9.8%	13.6%	16.8%	-7.0%
人に認められるため	51.2%	49.3%	53.3%	-2.1%
お金持ちになるため	34.1%	33.1%	55.6%	-21.5%
自分の得意なことを活かすため	65.9%	74.1%	74.5%	-8.6%
やりたいことをするため	82.9%	87.1%	87.0%	-4.1%
遊ぶのに必要なお金を得るため	39.0%	47.5%	62.4%	-23.4%
暮らすのに必要なお金を得るため	87.8%	86.4%	93.7%	-5.9%
人と仲良くするため	68.3%	46.0%	36.5%	31.8%
人の役に立つため	87.8%	73.6%	56.3%	31.5%
世の中を良くするため	48.8%	42.9%	36.1%	12.7%
働くのは当たり前だから	73.2%	73.4%	72.4%	0.8%
貧乏にならないため	51.2%	67.1%	79.8%	-28.6%

※各項目で最も値が大きかった箇所を網かけにした。

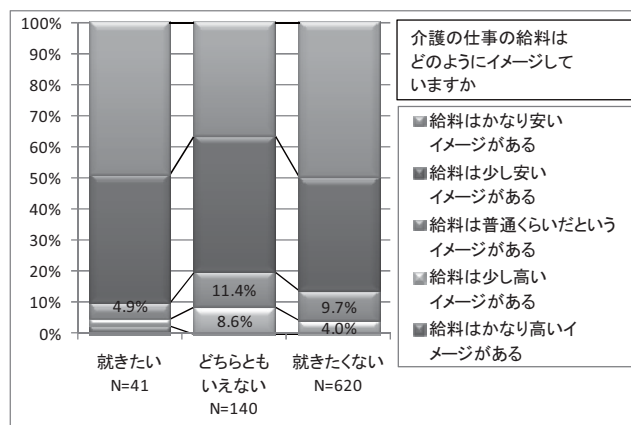
また、(差)が20%以上あった箇所を太字にした。

図表４５に示すように、介護の仕事に「就きたい」と考える若者は、必ずしも介護の仕事で満足のいく水準の給料が得られると考えている訳ではない。

むしろ、図表４６に示すように、介護の仕事に関心をもち、よく知っている面もあるだけに、一般の若者と同様に給料は安いというイメージをもっている面もある。



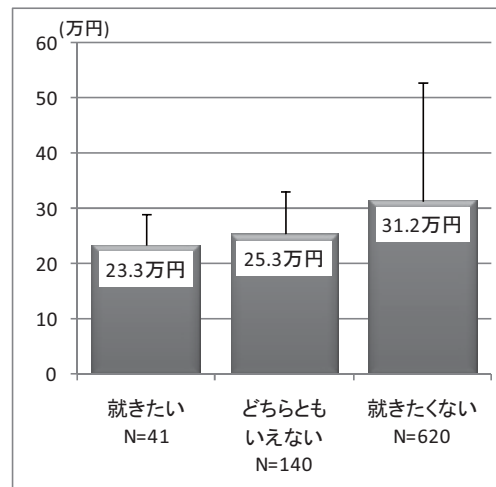
図表45 「給料が満足のいく水準でありそうだ」に対する回答の就職希望別の違い



図表46 「介護の仕事の給料はどのようにイメージしていますか」に対する回答の就職希望別の違い

図表４７に示したとおり、実際、介護の仕事に「就きたい」と考える若者は、介護の仕事をするにあたって希望する月給の金額も低めになっていた。

介護の仕事を希望する若者が、必ずしも、収入を目的に働きたいと考えている訳ではなく、実際に希望する金額は少ないが、とは言え、約 23 万円の金額は希望しており、今後、収入面での改善は継続して懸案事項となると考えられる（なお、「就きたい」と考える若者のうち首都圏の者の希望金額は 25.7 万円、同じく首都圏以外の者の希望金額は 21.8 万円であった）。



図表47 介護の仕事をするにあたって希望する月給の額の就職希望別の違い

(7) 介護業界の働き方について

図表48に示したとおり、介護の仕事に「就きたい」と思う若者は、概して介護の仕事を肯定的に評価していた。なかでも、特に、「仕事にやりがいがありそうだ」「資格や専門知識を活かすことができそうだ」「資格取得や勉強する機会が充実してそうだ」「自分の将来のイメージが描けそうだ」などの面を高く評価していた。

図表48 介護関係の業界における働き方についての就職希望別の違い

介護関係の業界での働き方について、どのように考えですか	就きたい N=41	どちらとも いえない N=140	就きたくない N=620	就きたいー 就きたくない (差)
給料が満足のいく水準でありそうだ	7.3%	4.3%	3.9%	3.4%
休みがきちんと取れそうだ	12.2%	3.6%	4.5%	7.7%
夜勤などがあって勤務時間が不規則そうだ	87.8%	77.9%	82.7%	5.1%
社宅や寮が充実してそうだ	14.6%	15.7%	12.3%	2.3%
自分の仕事ぶりが正しく評価されそうだ	39.0%	21.4%	21.5%	17.5%
資格取得や勉強する機会が充実してそうだ	58.5%	35.7%	33.4%	25.1%
職場の雰囲気が良さそうだ	22.0%	20.0%	18.3%	3.7%
家庭生活と両立できそうだ	19.5%	5.0%	7.3%	12.2%
仕事を通じて社会に貢献できそうだ	82.9%	85.7%	86.1%	-3.2%
一緒に働く仲間と協力し合えそうだ	73.2%	63.6%	59.5%	13.7%
自分の仕事が人に感謝されそうだ	78.0%	82.9%	80.0%	-2.0%
仕事にやりがいがありそうだ	95.1%	73.6%	57.3%	37.8%
資格や専門知識を活かすことができそうだ	95.1%	75.7%	67.7%	27.4%
仕事が体力的にきつそうだ	87.8%	86.4%	92.4%	-4.6%
自分の将来のイメージが描けそうだ	29.3%	8.6%	5.2%	24.1%

※各項目で最も値が大きかった箇所を網かけにした。
また、(差)が20%以上あった箇所を太字にした。

また、図表49に示したとおり、介護の仕事に「就きたい」と思う若者は、「介護の仕事が自分に合うなら働きたい」「研修や指導が充分であれば働きたい」「病気・ケガの心配がなければ働きたい」「人間関係や職場の雰囲気が良ければ働きたい」と考える割合が高い。

図表48と重ね合わせて考えた場合、介護の仕事に就きたいと考える若者は、介護の仕事が自分に合っており、やりがいを感じられるかということを重視しているが、一方で、介護の仕事で働くことで資格を取得したり、勉強したりすることができるかどうか、そのための研修や指導や十分であるかどうか、そうして取得した資格や専門知識を活かして働けるかどうかにも重視している。そうした資格や専門性を身につけることによって、自分の将来のイメージが描けそうか否かを考えているとも言えるであろう。

なお、介護の仕事に「就きたくない」と思う若者は、介護関係の仕事や職場がどうであれば働きたいかの設問に「どれにもあてはまらない」という回答が多いのが特徴である。介護の仕事にもともと興味がない若者は、どのような条件が整備されたとしても、介護の仕事に関心を向けない傾向があるということは、図表49の1つのポイントでもある。

図表49 「介護関係の仕事や職場がどうであれば働きたいか」の就職希望別の違い

介護関係の仕事や職場がどのようであれば、介護関係の仕事で働きたいと思いますか	どちらとも いえない		就きたくない	
	就きたい N=41	いえない N=140	就きたくない N=620	就きたい — 就きたくない (差)
介護の仕事が自分に合うなら働きたい	65.9%	63.6%	37.3%	28.6%
仕事内容に対して給料が高ければ働きたい	48.8%	58.6%	47.8%	1.0%
将来の見通しが立つならば働きたい	34.1%	39.3%	20.7%	13.4%
キャリアアップがしやすいならば働きたい	19.5%	18.6%	9.9%	9.6%
労働時間が短いなら働きたい	9.8%	14.3%	14.9%	-5.1%
夜勤が少ないなら働きたい	29.2%	18.6%	20.2%	9.0%
休日がとりやすければ働きたい	36.6%	35.7%	34.6%	2.0%
研修や指導が充分であれば働きたい	43.9%	29.3%	14.7%	29.2%
精神的・体力的にきつくなければ働きたい	41.5%	39.3%	44.6%	-3.1%
病気・ケガの心配がなければ働きたい	31.7%	14.3%	7.9%	23.8%
人間関係や職場の雰囲気が良ければ働きたい	65.9%	45.7%	35.1%	30.8%
どれにもあてはまらない	2.4%	7.1%	23.4%	-21.0%

※各項目で最も値が大きかった箇所を網かけにした。

また、(差)が20%以上あった箇所を太字にした。

(8) 介護の仕事に「就きたい」と希望する若者の特徴のまとめ

ここまで、介護の仕事に「就きたい」と希望する若者の特徴をまとめた。その結果、介護の仕事に「就きたい」と考える若者の特徴として、以下の10点が上げられる。

- (1)身のまわりに介護の仕事に就いていた人がいたか介護を受けていた人がいた。
- (2)介護の仕事の本・映画・テレビなどのマスメディアではなく、親や先生などの大人を通じて、または職場体験やボランティアなどを通じて知った。
- (3)両親が介護の仕事の魅力的と考えており、介護の仕事に就くことを勧めている。
- (4)祖父・祖母と同居している割合が高く、日頃よく話をする相手として祖父・祖母を挙げる割合が高い。
- (5)介護に関する職場体験・インターンシップ・ボランティアの経験をしている。
- (6)介護の仕事「明るい」「温かい」「素敵」と捉える割合が高かった。
- (7)もともと「お年寄り」や「介護」に対するイメージが良い。
- (8)人と仲良くするため、人の役に立つために働きたいと考えており、お金のために働き

たいとは考えていない。

(9)介護の仕事が給料が高いとは考えておらず、介護の仕事をするにあたって希望する収入の額も低い。

(10)介護の仕事のやりがいを重視している他、介護の仕事を通じて資格を取得したり、専門知識を身につけることを重視しており、将来のイメージが描けそうかも考慮している。

今回の調査結果からは、以上の10点が、介護の仕事希望する若者と関連の深い要因であり、介護の仕事に興味・関心をもつ若者を増やし、介護の仕事に就いてもらうためには重要な条件となる要素であると考えておくことができるであろう。

5. 介護の仕事に関心があるのに、介護の仕事に就かないのはどのような若者か

最後に、介護の仕事に関心があるのに介護の仕事に就かない若者の特徴を検討するために、調査回答者を、以下の3つのグループに分けて検討を行った。

①介護業界または介護の仕事に「関心ありー就きたい」

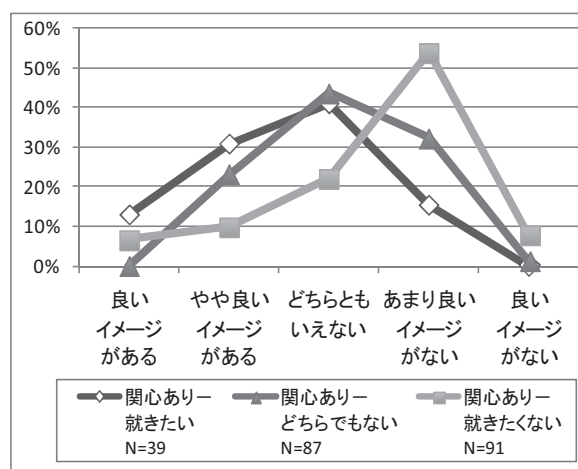
②介護業界または介護の仕事に「関心ありーどちらでもない」

③介護業界または介護の仕事に「関心ありー就きたくない」

ここでの分析のポイントは、③「関心ありー就きたくない」の若者にあり、この若者をめぐって顕著な結果がみられたものを、以下に図示することとした。

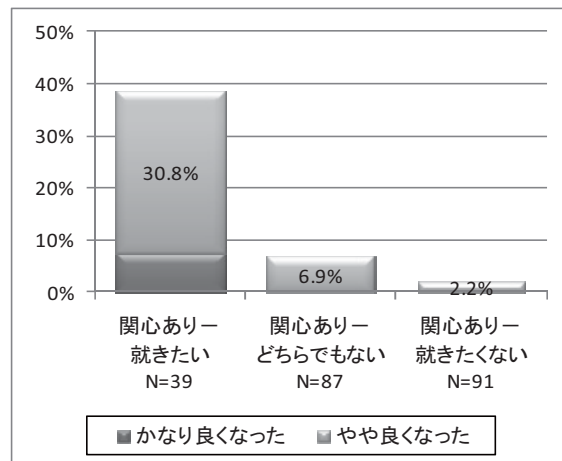
この層の若者に焦点を当てた理由として、介護業界および介護の仕事に積極的に「就きたい」とは回答していないが、「関心はある」と回答した若者は、潜在的に介護業界に就職する可能性のある有力な人材予備軍の若者として考えられるからである。この潜在的な介護業界に就職する可能性のある若者達の特徴を捉えることによって、今後、介護業界に進む若者の裾野を広げるための手がかりを得たいと考えた。

上記の問題意識をもとに検討を行った結果、まず、顕著に違いがみられた回答の1つに「介護」に対するイメージがあった。図表50に示したとおり、介護の仕事に「関心があるのに就きたくない」若者は、もともと介護にあまり良いイメージをもっていなかった。



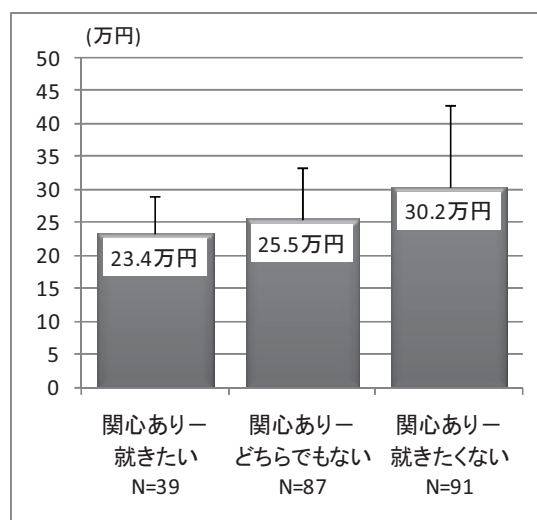
図表50 「介護」に対するイメージの「関心あり・なしー就きたい・就きたくない」別の違い

また、図表 5 1 に示したとおり、若者の就職が厳しくなっている現状でも、介護の仕事に「関心があるのに就きたくない」の若者は、介護に対するイメージがほとんど変化していなかった。



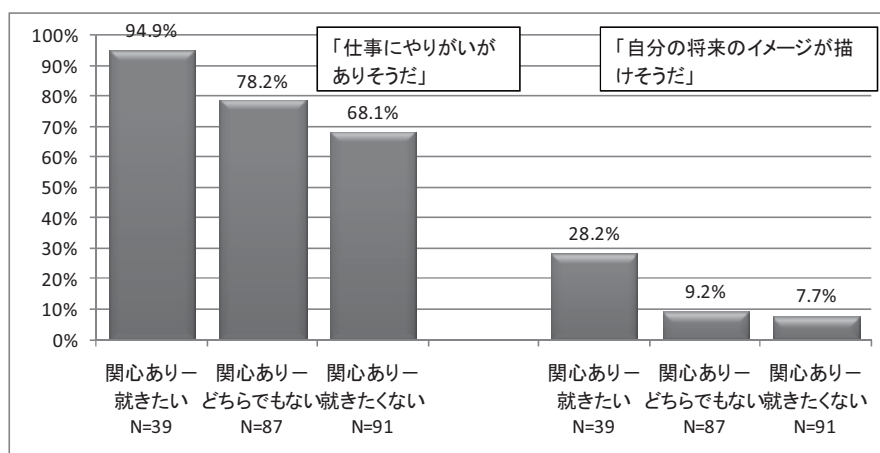
図表51 介護業界に対するイメージの変化の
「関心あり・なしー就きたい・就きたくない」別の違い

さらに、図表 5 2 に示したとおり、介護の仕事に「関心があるのに就きたくない」の若者は、介護の仕事をするにあたって希望する月収も高く、介護の仕事に就きたいと考える若者と大きく異なっていた。



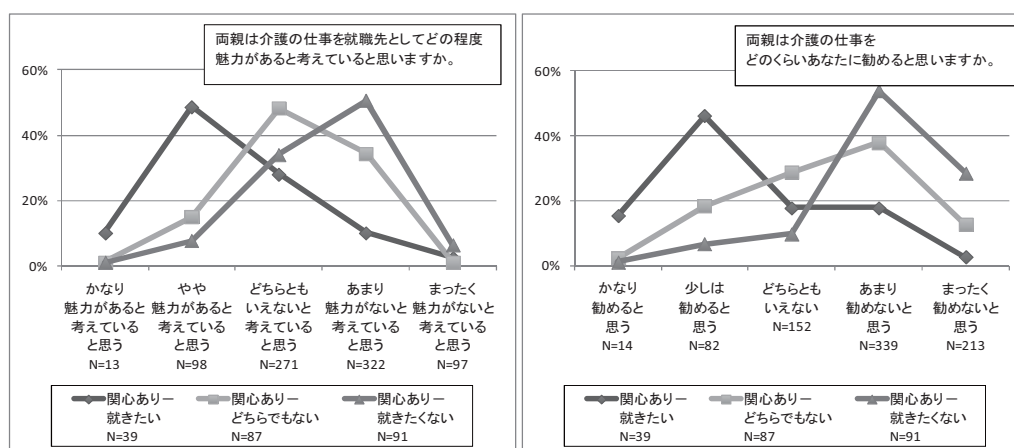
図表52 介護の仕事をするにあたって希望する月給の
「関心あり・なしー就きたい・就きたくない」別の違い

図表 5 3 に示したとおり、介護の仕事に「関心があるのに就きたくない」の若者は、介護の仕事にやりがいを感じる割合が低く、自分の将来のイメージが描けそうだと感じていないという特徴もみられた。



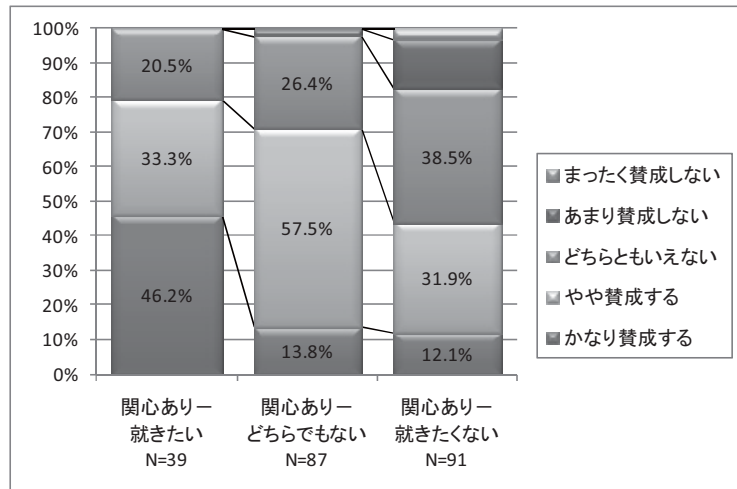
図表53 介護関係の業界での働き方に関する考え方の
「関心あり・なしー就きたい・就きたくない」別の違い

また、図表54に示したとおり、介護の仕事に「関心があるのに就きたくない」の若者は、両親も介護の仕事に魅力があると考えていないと思い、両親はあまり勧めないだろうとも考えていた。



図表54 両親の介護関係の業界および仕事に対する感じ方の
「関心あり・なしー就きたい・就きたくない」別の違い

図表55に示したとおり、介護の仕事に「関心があるのに就きたくない」と思う若者は、友達が介護の仕事に就くと言っても賛成しないと回答していた。



図表55 友達が介護の仕事に就くことに賛成するか否かの
「関心あり・なしー就きたい・就きたくない」別の違い

以上の結果をまとめると、介護の仕事に関心がありつつも、反面、介護の仕事に就きたくないと回答する若者の特徴として、(1)もともと「介護」に対するイメージが良くない、(2)若者の就職が厳しい現状においても介護業界に対するイメージが変化していない、(3)介護の仕事をするにあたって希望する給料が高い、(4)介護の仕事にやりがいを感じる割合が低く、将来のイメージが描けそうであると感じていない、(5)両親も魅力を感じておらず、勧めないだろうと考えている、(6)友達も賛成しないだろうと考えているといった点が明らかになった。

上記のような結果をどのように解釈すべきであろうか。ここでは、**介護に漠然とした関心をもつ若者は、むしろ漠然としか関心をもっていないからこそ、実際の介護の仕事の内容や中身をほとんど知らないまま、漠然と毛嫌いしている面があるものと考えられる。**介護に対する漠然とした関心が、世間の漠然とした介護の仕事に対するステレオタイプと結びつき、よく内実を理解しないまま、介護の仕事に対する偏った見方をしている可能性が高い。

したがって、こうした若者に対しては、**実際に介護の仕事に就いている人や介護を受けている人、介護の仕事に詳しい親や教員など、介護の仕事の実態を詳しく伝えられる人による適切な情報提供が重要**になるであろう。介護に関する地道な啓発活動が、もともと介護に対して漠然とした関心をもっている若者に、介護の仕事に対する現実的な就職希望を抱かせるための重要な基礎となっていくものと推察される。

* * *

調査全般を通して、介護業界および介護の仕事の特徴は、若者に十分に知られないまま、本や映画・テレビなどの情報から、漠然とステレオタイプ的に偏った見方をされているという面が強いことが、改めて明らかになった。

今回の調査結果からは、実際に身近に介護の仕事に就いている人や介護を受けている人と接したり、また、そうした人がいない場合でも、職場体験・インターンシップ・ボランティア等の体験をしたりすることの重要性が示された。そうした事がらを通じて、何らかの形で介護の仕事を深く詳しく知ることができればできるほど、若者は、むしろ介護の仕事に対するイメージを高め、介護の仕事に対する就労希望を高めていく可能性が高い。

また、純粋な小学生や多感な中学生時期の職場体験・ボランティア（あるいは慰問等も含めて）は多くの子ども達に良いイメージが潜在的に残る。特に、喜ばれた、人の役に立ったうれしさは採用面接などでも必ず介護を目指すきっかけとしても聞かれる。学校の授業での先生の話は職業選択に結びつきやすいことから、介護に対して若者のイメージアップへの試みが検討されるべきであろう。公務員・教員・企業などでの体験やボランティア・インターンシップなどによって、良いイメージを持ち帰る若者は多い。高校生や大学生にも介護を知るチャンスをカリキュラムの中に入れるよう働きかけることも重要になるであろう。

介護の仕事の必要性・重要性は、若者の間でも十分に理解されており、この仕事が実際に人の役に立つ様を目の当たりにすることによって、介護の仕事に興味や関心をもつ若者はこれまで以上に増やすことができるものと思われる。今後の介護人材の確保に向けた地道な取り組みの一環として、学校段階の若者を対象とした啓発普及にはよりいっそうの注力がなされるべきであろうと考えられる。